



## 松本大学松商短期大学部

### 正課内外の学修成果の可視化を通じた卒業時の質保証の取組

#### 【取組の概要】

本取組では、「学修ポートフォリオ」や「ルーブリック」による学修成果の可視化を通して、学生が自分の技術・能力の成長を把握しながら主体的に学修を進める環境を整備し、卒業時に「ディプロマ・サプリメント」を発行することで、修得した技術・能力を客観的に評価する仕組みを構築する。学生は「コンピテンス配分表」を用いて履修科目を決定し(Plan)、授業では「e-ポートフォリオ」を含む「学修ポートフォリオ」を活用して学修し(Do)、成績表や「ルーブリック」による学修成果の確認を通して(Check)、自身の改善を図りつつ次学期の履修科目を決定する(Action)。本取組では、このようなPDCAサイクルを回しながら学生が主体的に学修を進める環境を整備し、「ディプロマ・サプリメント」の発行を通して学修成果を社会に提示するとともに、外部評価体制を構築することで大学の教育の質保証を図る。

#### 【取組のポイント】

- ▶ 「e-ポートフォリオ」を含む「学修ポートフォリオ」の取組の見直しによる学修成果の可視化の促進
- ▶ 「コンピテンス配分表」「ルーブリック」等による評価基準の可視化と指標の統一化・共通化
- ▶ 多様なコンピテンスを育成するための4学期制導入と4学期制対応プログラムの開発・実施
- ▶ 卒業時の質保証としての「ディプロマ・サプリメント」の発行と普及、並びに在学中の活用
- ▶ 学修成果の可視化や卒業時の質保証のための学内基本システムと学修支援システムの改修
- ▶ 本学の教学改革、並びに教育の質保証のための評価・助言体制の構築



#### 【キーワード】

「コンピテンス」、「学修成果の可視化」、「ルーブリック」、「4学期制」、「ディプロマ・サプリメント」

#### 【人材育成目標】

本学の教育理念は「自主独立」であり、その教育目標は主体的に自分の能力を高め、地域社会に貢献できる中核の人材の育成である。本取組により、学生は客観的に自分の学修成果を把握できるようになり、自分が次に何をすべきかが明確になる。したがって、本取組における人材育成目標は、自分の学修成果を客観的に認識し、PDCAサイクルを回しつつ主体的に自分の能力の向上に努め、自分自身の改善を通して自立して生きていく意志と能力を持った人材、すなわち本学の教育理念である「自主独立」を体現する人材である。

このような人材育成目標に対して、本取組は、コンピテンス育成を核とした本学の教育改革を、アクティブラーニングとルーブリック等による学修成果の可視化を通してより体系的に再構築し、その教育成果を地域社会に発信する取組になっている。

#### 【教育上の課題】

本学では、10年以上にわたってコンピテンス育成を重視した教育を展開しているが、様々なコンピテンスを評価する指標(ルーブリック等)と評価対象となるアセスメント・プログラムの開発が遅れており、アクティブラーニングの推進を含めてコンピテンス評価に対する教員間の認識の共通化を進める必要がある。また、本学では、様々なコンピテンスを集中して育成するために4学期制を実施したが、4学期制を活用した留学や長期インターンシップ等のプログラムの開発についても進める必要がある。さらに、ディプロマ・サプリメントの発行についても地域社会の理解が不可欠であり、その周知を図っている。

#### 【これまでの取組、実績・成果】

##### <取組>

本取組では、集中して学修する環境の整備として4学期制を導入したが、それに伴って学期を活用した留学やインターンシップなどのプログラムの開発を進めている。また、4学期制の導入に伴ってシステム改修を行い、4学期制に対応した教務関係の学内基本システムとICT教育を推進する学修支援システムが再構築されている。

他方で、本学の教育改革の柱であるコンピテンスの育成については、本学で育成すべき「コア・コンピテンス」の抽出と、評価基準の共通化の観点からルーブリックの作成を行い、2017年度からは作成された

ルーブリックによるコンピテンス評価を実施しており、現在は教員間の認識の共通化と指標の見直しを行っている。また、本学のコンピテンス育成教育の核となる「出席レポート」の取組については、4学期制に対応して、教育効果を考えながら実施している。

本取組の成果の公表については、毎年「APフォーラム」を実施している。このフォーラムでは他大学の事例報告や教育改革についての講演等も行っており、本学教職員の意識改革に活用している。

本取組では、卒業時の質保証として「ディプロマ・サプリメント」(下図)の発行を予定しており、本学の教育でメインとなる検定や資格に加えて、5つのコア・コンピテンス、留学やインターンシップなどの活動についても記載し、本学での教育成果と多面的な学生の把握が可能になっている。

##### <実績・成果>

- 4学期制への移行に伴うシステム改修
- 4学期制に対応した留学プログラム等の開発と実施
- コア・コンピテンスの抽出とルーブリックの作成、評価の実施
- PDCAサイクルにより主体的に学修を進める環境の構築
- 「ディプロマ・サプリメント」の作成と発行体制の構築
- 外部評価体制の構築と企業・卒業生アンケートの実施

##### 【今後の取組の計画】

##### <取組の計画>

4学期制を活用したプログラムとして、この3年間は留学プログラムの開発を中心に海外の大学との連携を進めてきた。今後は、国内外の長期インターンシップ・プログラムの開発を進め、さらにはボランティア活動などについても評価基準や評価体制を整備し、コンピテンス育成のプログラムとして位置づける。

「コア・コンピテンス」の育成と「ルーブリック」評価については、アセスメント・プログラムの開発に加えて、教員間のパフォーマンス評価に対

する認識の共有化を促し、評価の共通化を図るためにFD・SD活動を充実させていく必要がある。さらに、アセスメント・プログラムに対するルーブリック評価は、誰が行っても同様の評価になるのが望ましい。したがって、アセスメント・プログラム自体の研究についても進める必要があり、その成果は、学会等の場で公表していく予定である。

また、主として“知識”の質保証と考えられる「成績証明書」に対して、“技術”と“能力(コンピテンス)”の質保証としての松商短大版「ディプロマ・サプリメント」を発行することで、学生を多面的に把握することが可能になるとともに、大学教育における多様で深い学びの可視化が可能になる。したがって、地域社会や地元企業に対して「ディプロマ・サプリメント」の周知が不可欠であり、積極的に普及させていく。

【本取組における成果と社会へのインパクト】

- 4学期制導入による集中学修と多様なコンピテンスの育成
- ルーブリック評価によるコンピテンス育成教育の可視化と平準化
- 学修ポートフォリオによる客観的な学修成果の把握
- 学修成果の可視化による主体的学びの促進
- ディプロマ・サプリメントの発行による学生の多面的評価の促進

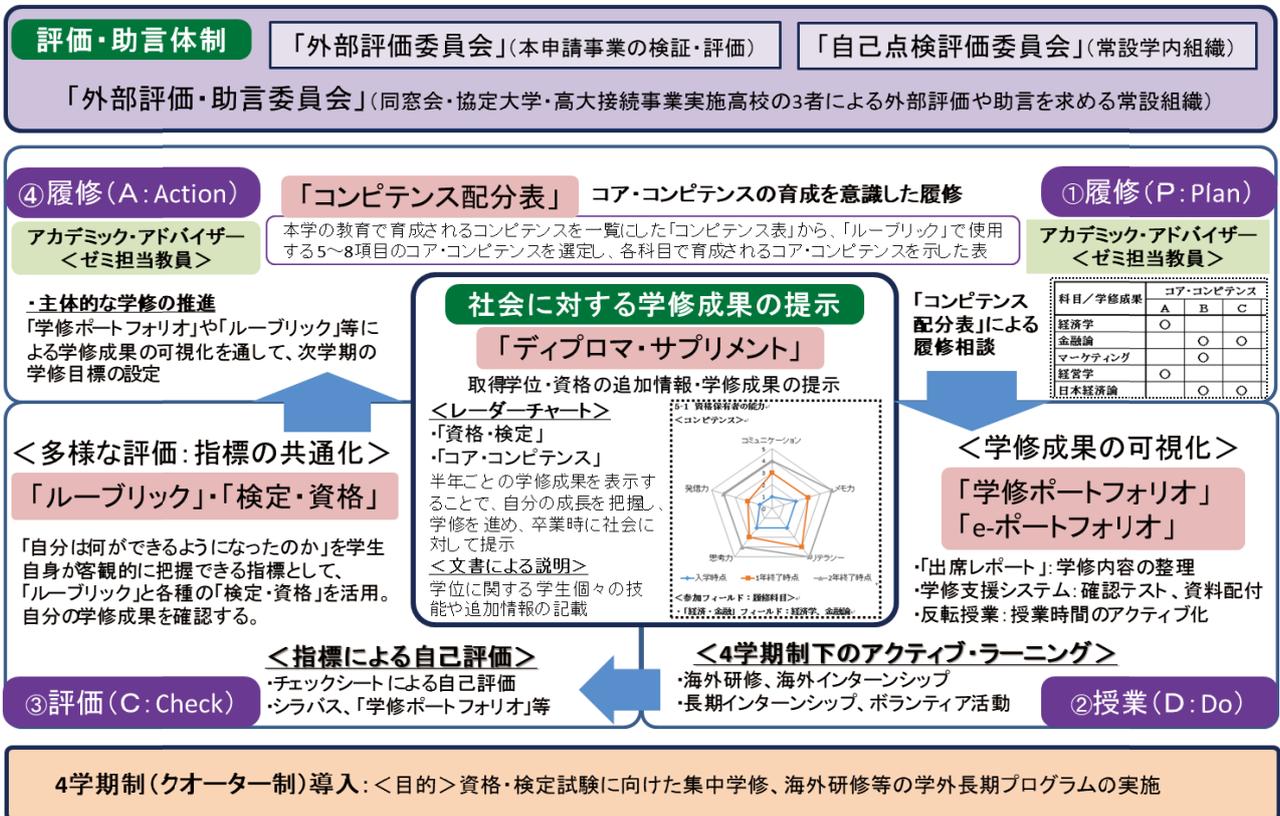
【本取組の質を保証する仕組み】

「ディプロマ・サプリメント」は、在学中の正課内外の活動を可視化し、個々の学生の学修成果を表現する学位補足資料であるが、他方では大学側の教育成果の可視化を意味する。また、そこに記載される内容は一定の基準や評価に基づく学修成果であり、知識のみならず技術や能力(コンピテンス)等の教育の成果である。したがって、「ディプロマ・サプリメント」自体が教育の質を保証する役割を持っている。

また、本取組では、本学のアセスメント・ポリシーに基づいて、入学前教育から卒業までの間、自分の能力についての自己評価や他者評価、共通のルーブリックによる複数科目でのコンピテンス評価が行われており、主観的な評価を客観的な評価に転換する仕組みを構築している。つまり、学生は、学修ポートフォリオを活用して“振り返りによる学修”を進め、自分の能力の状態を客観的に把握しながら主体的に学修を進めることができ、学生と教員の双方が間接・直接評価、質的・量的評価を行うことで、教育の質保証の仕組みを構築しているのである。

さらに、本学のディプロマ・ポリシーやカリキュラム・ポリシーとの関係については、AP実施委員会や自己点検評価委員会での検討に加えて、本取組に対する外部評価委員会や常設の外部評価・助言委員会で議論し、本取組の質の保証を確保している。

テーマV  
卒業時における質保証の取組の強化  
松本大学松商短期大学部



具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)	具体的な実施計画における指標	2016年度 (起点)	2017年度 (実績)	2019年度 (目標)
学生の成績評価(GPA平均)	2.46	2.37	2.49	質保証に関するFD・SDの参加率	76%	84.61%	92%
学生の授業外学修時間 (1週間当たり)	7.0時間	12.6時間	18.0時間	卒業生追跡調査の実施率	10%	15.37%	25%
進路決定の割合(全学) ([就職決定者数+進学者数] / 卒業者数)	95.00%	96.81%	96.50%	「大学教育に満足している」学生の割合	93%	89%	97%
事業計画に参画する教員の割合	100%	100%	100%	学修ポートフォリオの利用率	100%	100%	100%
				学修到達度調査の実施率	100%	100%	100%